

# 7月の新着本

## 7月13日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

発現	阿部 智里	八咫鳥シリーズの阿部智里が切り拓く新境地。平成と昭和、二つの時代に起こった不可解な事件。真相を求めて近づこうとする者たちを嘲笑うかのように謎は深まり続け、次第に彼らの背中にほの暗い闇が迫ってくる。運命に導かれるようにしてたどり着いた先は、光明か絶望か。
シーソーモンスター	伊坂 幸太郎	我が家の嫁姑争いは、米ソ冷戦よりも恐ろしい。バブルに浮かれる昭和後期の日本。一見、どこにでもある平凡な家庭の北山家だったが、ある日、嫁は姑に大きな疑念を抱くようになり…(「シーソーモンスター」)。突然、僕は巻き込まれてしまった。時空を超えた争いに…。舞台は2050年の日本。ある天才エンジニアが手紙を握りしめ、彼の旧友と配達人が見えない敵の暴走を前に奮闘する!(「スピンモンスター」)。時代をまたいで疾走する、エンターテインメント小説2編。
父と私の桜尾通り商店街	今村 夏子	商店街の外れでパン屋を営む父と娘の「私」。うまく立ち回れず商店街の人々からつまはじきにされていた二人だが、「私」がコッペパンをサンドイッチにして並べ始めたことで予想外の評判を呼んでしまい…。違和感を抱えて生きているすべての人へ送る「不器用な私たち」の物語。作品を発表するたびに読む者の心をざわめかせ続ける著者の最新作品集。
とめどなく囁く	桐野 夏生	塩崎早樹は、相模湾を望む超高級分譲地「母衣山庭園住宅」の瀟洒な邸宅で、歳の離れた資産家の夫と暮らす。前妻を突然の病気で、全夫を海難事故で、お互いに配偶者をなくした者同士の再婚生活には、悔恨と愛情が入れ混じる。そんなある日、早樹の携帯が鳴った。もう遠くなったはずの前夫の母親からだった。通俗小説の形を借りてどこまで人間の機微に迫れるかに挑んだ意欲作。
マーダース	長浦 京	救えるだろうか。僕を殺人犯だと知っている君を。この街には複数の殺人者がいる。彼ら出会うとき、法では裁き得ない者たちへの断罪が始まる…。現代社会の「裏」を見抜く、圧倒的犯罪小説。
泣くな研修医	中山 裕次郎	雨野隆治、25歳、外科研修中。今日も家には帰れない、帰らない。生活保護で認知症の老人、同い年で末期がんの青年、交通事故で瀕死の重傷を負った5歳の少年…。新米医師の葛藤と成長を圧倒的リアリティで描く医療ドラマ。
FACTFULNESS	ハンス・ロスリング	ファクトフルネスとは、データや事実に基づき、世界を読み解く習慣。賢い人ほどとらわれる10の思い込みから解放されれば、癒やされ、世界を正しく見るスキルが身につく。教育、貧困、環境、エネルギー、医療、人口問題などをテーマに世界の正しい見方を紹介。ビル・ゲイツ、バラク・オバマ元米国大統領も絶賛。世界中で反響を呼んでいる異例のベストセラー。
蟻の棲み家	望月 諒子	貧困、教育、環境、エネルギー、人口問題…。賢い人ほど世界の真実を知らない。事実に基づく世界の見方を教え、とんでもない勘違いを観察し、学んだことをまとめた1冊。
火神子	森山 光太郎	第10回朝日時代小説大賞受賞作。新しい国を創るため、民を皆殺しにする征服者と、己の弱さを知るが故に弱き者を救う王の娘。国を統べるのにふさわしき者はどちらか? 弥生時代を舞台に「日本」の起源に迫る壮大な歴史ロマン。
おにぎりの文化史 <b>【今月のスタッフおすすめ本】</b>	横浜歴史博物館	日本を代表する食である「おにぎり」。だが、その歴史は意外にも明らかになっていない。古今の文献や最新技術を駆使しておにぎりの歴史をひもとき、日本人とコメの出会いにアプローチする。横浜市歴史博物館、話題の「大おにぎり展」が増補書籍化。神奈川新聞に書評、朝日新聞に特集記事掲載!

☆ NHKテレビテキスト「きょうの料理7月号」は閲覧できます。

なお、8月新着本貸出日(8月10日)から貸出いたします。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

